



倉田春彦のFPF通信

キーパーソンのためのお金のはなし
「原動力」

for Executives



半年程前、政府が今年度の実質経済成長率を 1.8%、景気実感に近い名目経済成長率を 2.5%とする経済見通しを閣議で了解したと報じられました。↗



「経済とひとびとの体温」

「経済成長率を閣議で了承」などと言われると、何だか雲の上の私たちとは縁遠いものに思えてしまいますが、こうした思いや愛情、期待や目論見が家計や企業活動、つまり経済の原動力となっているのだと考えると、経済という言葉からは急に人々の体温が感じ

「行動に向けて」

まとまった資金が必要ですか、また、それはいつまでに必要ですか。もし、病气や事故、景気や取引先の不調など、行く手を阻む事態が自身や家族、または自社の前に立ち上がった時に対してはどう備えますか。

預貯金、積立、保険、年金、借入など、資金を準備したり、不測の事態に備え

経済成長率や経済学など、「経済」は日ごろよく目にする言葉ですが、何となく縁遠い印象がありませんか。今回はそんな経済を身近に感じるお話です。

ひとつ目は、「教育にしっかりお金をかけ、子どもには自力で生き抜く力を身につけさせたい。遺産ではなく教育を」と語るお父さま。貯金も老後の準備も後回しにする勢いにちょっぴり不安を感じる奥さまですが、お子さまの将来を案じる深い愛情とそれに基づく教育方針が家計を動かしています。

られてきます。

「取引先を拡大したい」「店舗を増やしたい」「子どもを中高一貫校へ進学させたい」「勉強、修行、美容、肉体改造など、自分自身を変えたい」「家庭を持ちたい」「いつも若々しくいたい」「こんな老後を過ごしたい」等々。

る方法は多種多様。具体的な商品とみると、それぞれに異なる特徴や機能があります。

皆さまのニーズにあった納得のいく対策方法を検討するために、ぜひ私を利用してください。その他、お困りのことやご質問などがある時は、どんなことでも私にお気軽にお尋ねください。

もうひとつは企業。明治維新から数えて 150 年の今年。TV では、明治維新の立役者のひとり、西郷隆盛の生涯を描くNHK大河ドラマ『西郷どん』が放映されています。縁の地鹿児島では、西郷隆盛のキャラクターをあしらった商品を発売するなど、放映効果への期待と明治維新 150 周年をテコに消費を刺激しようという企業の目論見が投資活動のひとつの原動力となっているようです。

そんな思いや目論見を具体的な行動に移して、何とか実現させたいものですね。実は、それをお金の側面からサポートするのは、他ならぬ私の使命のひとつです。



こんな時は私までご連絡ください

プロが指南する「魅力アップ講座」 暑い時期の小物使い

～ハンカチと扇子～

暑い時期には、汗を拭くハンカチや、暑さを和らげる扇子などのアイテムが大活躍しますね。

しかし、ビジネスシーンやかきこまった場面ではどのように使うのが適切なのか、不安になったり迷ったりしたことはありませんか？



「ハンカチ」

汗を拭くためにポケットから出したハンカチがヨレヨレで清潔感がなかったら、ちょっと残念ですね。そうならないためにも、できることならハンカチは汗拭き用と手拭き用の2枚を持ち歩いてみて下さい。

汗拭き用は綿素材のもので、汗ジミ

が目立たないような涼しげな色を選ぶのがお勧めです。しっかりとアイロンをかけておくことで清潔感をアピールできます。

タオル地のハンカチは吸水力があるように感じますが、ビジネスシーンで使うのはベストではありません。また、タオル地は人前では使わない手拭き用にと、汗拭き用と区別ができて便利です。

「カバンの中に」

ところでハンカチは一体どこに入れて持ち歩いたら良いのでしょうか。あらためて問われるとこれも悩みどころではないでしょうか。

いつでも使い易いようにスーツの上着やズボンのポケットに入れたくなりますが、それは避けてカバンの中に入れてみましょう。スーツの着こなしの問題だけではなく、シワにならず、体温で蒸れることもなく衛生面でも安心です。

「扇子」

次に扇子です。肌を冷やしてくれる

扇子は自分のタイミング、好みの風の強さで使いたいもの。でも、暑いからとむやみに扇子を扇ぐと、周りにいる人が不快に感じることもあります。

風が周囲の方に当たらないよう、顔の真下の首のあたりでゆっくり扇ぐとよいでしょう。また、仕事上の相手や目上の人と、会話を交わしながら扇子を使用するのは失礼にあたるとされていますので注意が必要です。

「時間にゆとり」

暑い季節は、ハンカチをたたんだまま汗を押さえるようにさりげなく拭いたり、静かに扇子を扇いだりすると、見た目に涼しげな雰囲気を出せ余裕も感じられますよ。

そのためには、時間にゆとりをもって行動することも大切です。



【講師紹介】茂木 ゆみ (Excellent Heart 代表)

国内航空会社にグランドスタッフとして通算 17 年間勤務。皇族、国会議員、大手企業トップ等の VIP 接遇を 4 万回以上経験する。現在は企業向けのマナー講師、個人向けの品格アップ・パーソナルコンサルタントとして活動中。

column『今さら聞けない「公的年金」って何？』

長寿大国のニッポンですが、長く生きるということは、それだけ生活にかかるお金がたくさん必要だということでもあります。

統計によると日本人の平均余命は男性が 80.98 年、女性が 87.14 年、65 歳男性の平均余命は 19 年以上、女性は 24 年以上、75 歳なら男性は約 12 年、女性は約 16 年、80 歳なら男性が

約 9 年、女性が約 12 年といった具合です。(「平成 28 年簡易生命表」厚生労働省) そんな老後の生活を支えてくれるのが「公的年金」です。また、家族の働き手が亡くなればのこされた家族には「遺族年金」、病气やケガで所定の障害の状態になったときには「障害年金」が支給されます。

では公的年金で皆さまの老後や残

された家族の生活はどこまで支えられるのでしょうか。受け取れる年金額には個人差がありますし、それ以上に、ご自身や家族がどのような生活を希望しているかによって必要額は異なります。

現状で十分なのか不足なのか、不足ならどの程度不足なのか。一度、ご一緒に見直してみませんか。

